

「ふるさと交流館」の状況と今後の活用法はどうなっているのか。

町長 現在休館中だが、説明員を確保して施設の利活用を図りたい



あびこひろまさ
我孫子 洋昌 議員

下川町における「ウィズコロナ」のあり方について

質問

今 年も万里長城クロスカントリー大会や福祉運動会が中止されましたが、万里長城祭代替企画の焼肉大会は開催されました。町はイベントなどの実施可否の判断基準を示すべきです。

町長 町で実施するイベントなどは、国の基本的対処方針や北海道のガイドラインなどを基本としながら、内容や規模、感染状況を踏まえた上で判断しています。これまで中止や延期となっていたイベントなどは、可能な限り実施したいと考えます。

再質問 クロスカントリー大会が中止となった経緯はどういうものですか。

教育課長 例年200人から250人規模の参加者のうち約9割が町外在住者で、PCR検査や3回のワクチン接種の証明を参加要件として実施を検討しましたが、参加者一人

一人を確認するスタッフが何十人も必要との計算になり、人材確保ができないため中止としました。

再質問 コロナ禍の影響で開館時間を変更した施設はどのように対応を行いますか。

町長 感染状況に応じた開館時間の変更などを行います。利用者の利便性に十分配慮したいと考えます。

ふるさと交流館の状況と今後について

質問

ふるさと交流館（「交流館」）の現状と今後の活用法を伺います。

町長 交流館は、町の歴史を伝える貴重な郷土資料などを展示する施設です。今後も適切な運営形態について関係機関などと協議しながら検討を進めたいと考えます。

教育課長 今年度初めに、交流館を事前申込制にして、来館の申し込みがあれば、教育委員会の職員が行って自由に見学してもらうということも検討しましたが、展示品につ

いての専門的知識が無く、対応できない現状では失礼にあたるということで、文化財保護審議会（「審議会」）にお願いして、当面は休館という体制を取っています。

町長 来館者への対応や収蔵品の整理などのため、人材確保を図るところです。

再質問

人材確保に向けた具体的な動きはありますか。

教育課長 先日、審議会に諮りまして、人材確保に努めます。学芸員の資格が無くても対応できる方がいればと考えます。

再質問 建設前の議論で「万が一にも憂いのある遺物にはしてもらいたくない」という議員に対し「町の歴史文化を知る場に育て、人々の交流の場としても愛される施設としたい」という町長の考えが示されています。

このような経緯を持つ交流館が30年余り経過して、資料の説明ができる人がいないから活用できないという残念な現状への対策を打つべきです。

教育課長 交流館について、町の財産として上手く活用できる方法を、収蔵品以外に町民が気軽にイベントをできるような方向性をもって検討したいと思えます。

再質問 関係機関、当時を知る方々、設計された毛綱氏の思想を知る専門家など、いろいろな考え方を結集して、よりよい施設となるように、そして当時の思いを反映できるようにすべきです。

町長 修学旅行生や企業研修で町に来られる方々が少しずつ増えつつあります。こういう方々に下川の歴史を見ていただく上で、交流館の展示物は有効になっていくと思えます。このことを視野に入れ、町民の皆さんの交流の場として利用を広げることができれば好ましいと思っております。
教育課長 こちらの意図とする、目的とする狙いを達成できるような人材を見つけていきたいと思っております。

※毛綱 毅曠（もつな きこう）
釧路市出身の建築家

（194152001）